

ときめき人

Tokimeki bito

願いと想いをしめ縄に込めて



(中央) 栗村太会長

— ニツ屋老人クラブ —
「るくじょかい」
「緑寿会」

「無病息災の願いと想いを込め、一つ一つ手間を掛けて丁寧に作っています」と話す一同。

豊里町のニツ屋老人クラブ「緑寿会」(栗村太会長)は毎年12月、豊里ニツ屋地域活性化センターに集まり、しめ縄作りに精を出している。しめ縄作りを始めたのは、昭和47年に日本文化の伝承と地域活性化のため、旧ニツ屋小学校の校長先生から提案されたのがきっかけ。提案に賛同した当時の会員が一から勉強し、毎年恒例行事とした。

現在は、玄関飾りや門飾りなど、5種類約500本を作っている。材料は、地元の農家が作付けし、昔ながらの棒掛けで自然乾燥させた「みやこがね」のわらを使用。色や艶の良いものだけを厳選している。その質の良さと丁寧な作りが評価され、毎年

迫町の羽黒神社と津山町の柳津虚空蔵尊から依頼があり、奉納している。質の良いわらが少なく、作るのを断念しそうになった年もあったが「先輩たちが築き上げてきた伝統を絶やしたくない」と、みんなでわらを探し回り継続してきた。

緑寿会は「小学生にも、日本古来の縄ない技術を体験してもらいたい」と、学校支援ボランティアとして豊里小・中学校3年生の縄ない体験に協力し、作ることの楽しさを伝えている。

「時代の流れとともに正月飾りをする家が減ってきているのは寂しいが、必要とされる限り日本文化と先輩たちから受け継いだ伝統を伝承していきたい」。願いと想いが込められたしめ縄が、一年間の幸せを呼び込んでくれる。

編集後記

▼年末年始は忘年会や新年会など、お酒を飲む機会が増えます。先日、人生初の人間ドックに行ってきましたが、日頃の飲み過ぎが見事に結果に出てしまいました。来年の目標はお酒の量を減らすこと。今年も同じような目標でしたが、あらためて頑張りたいと思います。(三浦)

▼緑寿会の皆さんを取材したとき、豊里ニツ屋地域活性化センターの中は、終始楽しそうな笑顔と笑い声があふれていました。元気な皆さんと出会えたことで、私も元気をもらいました。健やかで笑顔になることが多い年になるようお願いながら、新年を迎えたいと思います。(高橋)

▼今年も瞬間に過ぎいき、最後の月になりました。毎年、あっという間に過ぎる一年の早さに驚いていますが、今年はいつもの以上に早く感じました。2019年も市民の皆さんの声を大切に広報紙作りに励みたいと思いますので、よろしくお祈りします。(小野寺)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<https://mail.cous.jp/tomecity/>

